

# 試験管内コルヒチン処理による 四倍体ブドウ台木の作出

果樹苗木分場

## 1 背景、目的

「巨峰」などの四倍体ブドウ品種は、倍数性の異なる二倍体の台木品種に接ぎ木しているため、花振るいが多く、結実が不安定であると考えられています。

そこで、四倍体ブドウ品種の結実安定を図るため、試験管内コルヒチン処理により穂木品種と倍数性が同じ四倍体台木を作出しました。

## 2 成果の内容、特徴

1) ブドウ台木の四倍体個体は、試験管内で培養した腋芽を、0.05%のコルヒチンを添加した寒天培地に、1～2日間置床することで得られます。

2) 四倍体が得られたブドウ台木品種は、「グロアール」、「テレキ5C」、「テレキ8B」、「3309 コーデル」、「SO4」、「イブリッドフラン」および「テレキ5B」の7品種です。

3) フローサイトメーターを利用すると、5mm四方の葉片への簡単な処理（所要時間約3分）で、ブドウの倍数性を確認できます。

### 3 主要なデータなど

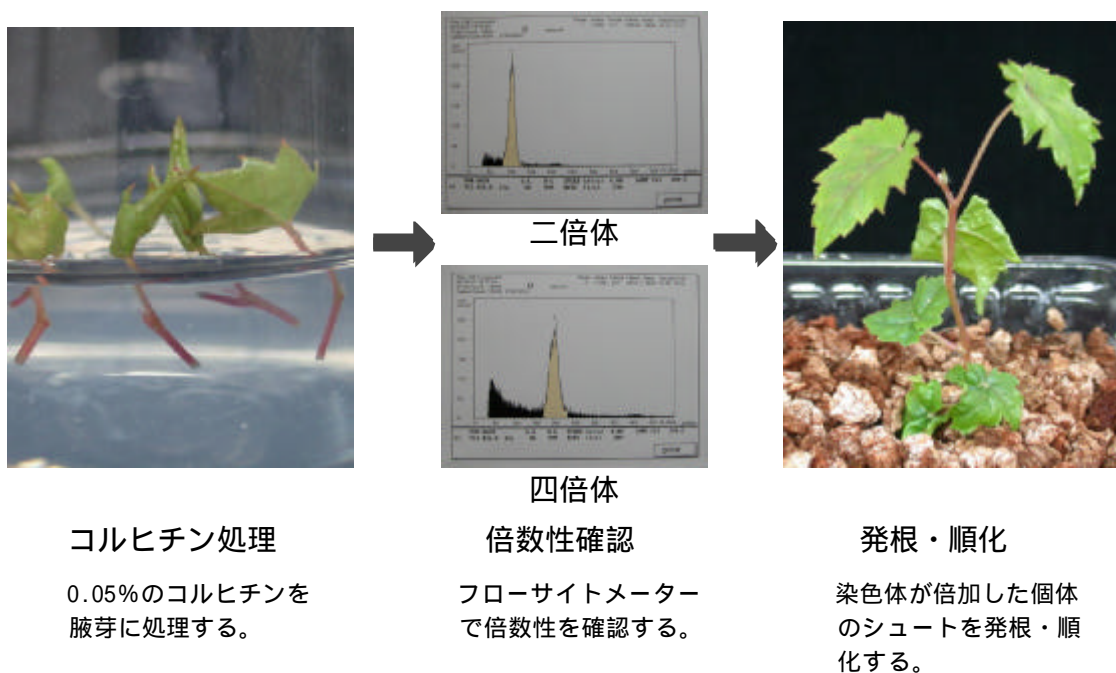


図1 四倍体台木の作出手順

表1 コルヒチン処理期間と四倍体獲得数

供試台木品種	コルヒチン <sup>1)</sup> 処理期間	供試 個体数	生存 個体数	生存率	四倍体個体 獲得数
	日			%	
グロア - ル	1	30	18	60.0	9
	2	30	8	27.0	4
テレキ5C	1	30	5	16.7	0
	2	30	5	16.7	1
テレキ8B	1	30	13	43.3	3
	2	30	5	16.7	0
3309コ - デル	1	30	25	83.3	2
	2	30	17	56.7	2
SO4	1	30	3	10.0	0
	2	30	4	13.3	1
イブリッドフラン <sup>2)</sup>	2	32	14	43.8	2
テレキ5BB <sup>2)</sup>	2	26	22	84.6	1

注) 1. コルヒチンの濃度は0.05%  
2. コルヒチン処理期間は2日のみ実施